

社会資本総合整備計画書

おおまがりえきしゅうへん
大曲駅周辺地区都市再生整備計画

平成23年3月

秋田県 だいせんし
大仙市

都市再生整備計画(第4回変更)

おおまがりえきしゅうへん
大曲駅周辺地区

秋田県 だいせん
大仙市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	秋田県	市町村名	大仙市	地区名	大曲駅周辺地区	面積	100 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

- 大目標：駅東西のバランスのとれたまちづくりによる中心市街地のにぎわい再生と魅力の向上
 目標1：駅西地区において、魅力ある街並み形成により中心市街地のにぎわい再生を図る。
 目標2：駅東地区において、生活基盤施設の整備により住環境を向上し定住化促進を図る。
 目標3：駅周辺において、交通結節機能の強化により利便性向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・大仙市は、秋田県南内陸横手盆地の北部に位置する。平成17年3月に1市6町1村が合併し、総面積は867km²、人口約95,000人の新市となった。近年、総人口は減少傾向にあるなか、65歳以上の人口が増加し、高齢化率は25.8%となっている。
- ・毎年8月に開催される「大曲の花火」は全国的にも知名度が向上し、1日の大会期間だけでも60万人を超える観光入り込み者数を記録している。
- ・大曲駅周辺地区は、JR大曲駅を中心に形成された旧大曲市の中心市街地を含む地区であり、駅の西側は商業系の土地利用、東側は住宅地、農地が主体の土地利用がなされている。
- ・駅西地区においては、既存商店街を含む密集市街地が形成されており、魅力ある町並みの形成による中心市街地の活性化を図るため、昭和50年代から土地区画整理事業が進めており、現在もふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業として大曲駅前第2地区の整備を進めている状況にある。
- ・平成5年に国道13号大曲バイパスが暫定2車線（現在4車線化事業中）で供用開始されて以来、国道13号沿道への大規模商業施設の立地が進み、駅西地区の既存商店街におけるにぎわいが急激に薄れてきている。
- ・平成9年3月の秋田新幹線の開業を契機として駅舎改築が実施され、同年7月には東西自由通路が供用されている。
- ・市町村合併がなされ駅北東方向とJR大曲駅の結節の重要性が急激に増しているなか、国道13号大曲バイパスとJR大曲駅を連絡する(都)駅東線の完成とともに、まちづくり総合支援事業(H13～H17)により、駅東地区と駅西地区と連絡する(都)花園線の整備が完成し交通結節機能の向上に一役を担った。
- ・こうした都市基盤整備が進められるなか、駅東地区においては民間による宅地開発が増加しているが、生活道路と幹線との接続や、公園等地域コミュニティ施設の整備は十分といえない状況にある。

課題

- ・駅西地区における既存市街地においては、狭隘道路が多数存在し安全性に問題があるほか、商店街のにぎわい再生が課題である。
- ・駅東地区においては、宅地開発が進み人口が増加する中、生活道路等の基盤施設整備の立ち後れや、市民交流の場となるコミュニティ関連施設が不足している。
- ・自動車交通と鉄道との交通結節機能向上が課題である。

将来ビジョン(中長期)

- 歩行者空間と動線が確保された中心市街地の中に多様な生活関連機能が集中し、市民が愛着を持って暮らすことができ、さらに、秋田自動車道大曲ICや秋田新幹線利用の玄関口となる中心市街地
- ・H17.3.22に8市町村が合併し、その中心となる大曲駅周辺地区は、市民生活を支える生活関連機能の集積を図るとともに、秋田自動車道大曲ICや秋田新幹線利活用玄関口にふさわしい交通結節機能と魅力付けを図るべき地区として位置づけられている。
 - ・旧大曲市の都市計画マスタープランにおいては、大曲都市計画区域の中心市街地として重点的に整備を行う区域に位置づけ、密集市街地の解消や幹線道路・地域コミュニティ施設等の整備・強化を方針としている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
1. 生活環境の満足度	%	定住者による生活環境の満足度(満足度アンケート等による)	地域生活基盤の改善を図り、定住者の満足度を高める。	47%	平成17年度	56% 平成22年度
2. 駅東地区における定住人口	人	駅東地区(大花町、福田町、幸町)の人口	地域生活基盤の改善を図り、定住者の増加を図る。	2,523人	平成17年度	2,723人 平成22年度
3. 駅自由通路の通行者数	人/日	大曲駅東西自由通路における通行者数	交通結節機能の強化による利便性の向上と、にぎわいの再生を大曲駅東西自由通路の通行者数により検証する。	840人	平成17年度	924人 平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(中心市街地のにぎわい再生と住環境改善)</p> <p>・駅西地区及び隣接地において、密集市街地の更新により魅力ある買い物空間を確保し、市街地のにぎわいを再生するため、土地区画整理事業を推進するとともに、良好な住環境形成を図る。</p>	<p>土地区画整理事業(基幹事業/大曲駅前第二地区:市施工)</p> <p>地域創造支援事業(提案事業/土地区画整理事業)</p> <p>まちづくり活動推進事業(提案事業/まちづくり協議会活動)</p> <p>住宅市街地総合整備事業(関連事業/大曲駅前第二地区)</p>
<p>整備方針2(住環境の向上による定住化促進)</p> <p>・駅東地区において、急激な市街化に対し立ち後れた生活基盤施設の整備により、さらに定住化促進を図るため、公園や道路等の整備を行うとともに、新たな交流拠点となる地域交流センターを整備する。公園と地域交流センターについては、災害時の一時避難所として位置づける。</p>	<p>道路事業(基幹事業/市道駅東16号線 L=359m、市道福田西線 L=235m)</p> <p>公園事業(基幹事業/しあわせ公園 A=3,000㎡)</p> <p>高次都市施設(基幹事業/地域交流センター 床面積A=1,200㎡)</p> <p>地域創造支援事業(提案事業/排水路整備事業L=350m)</p>
<p>整備方針3(交通結節機能の強化)</p> <p>・鉄道交通(特に新幹線)と自動車交通の結節点としてより結節機能の向上を図るため、地区計画に基づく幹線道路網整備により国道へのアクセス道路整備で結節機能強化を図る。</p>	<p>街路整備事業(関連事業/駅東線L=620m)</p>
<p>その他</p>	
<p>○ 事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>当地区では、平成15年度に発足したまちづくり協議会を今後も継続的に開催する。また、市商工会議所が中心となって「地域振興活性化事業」により特産品の開発やグリーンツーリズムを含む観光ルートの開発とそれを紹介する市民ガイドの養成など様々な試みを行っていることからこうした団体とも連携し、地域交流・地域活性を図る。</p> <p>○ イベント企画立案の市民参加を図るための方策について</p> <p>地域交流センターやしあわせ公園の整備にあわせて、地域交流を図るためのイベントについて、まちづくり協議会や地元町内会との連携により具体化するための方策を検討する。また、市のホームページを利用するなどして市民から意見等を集約する。</p> <p>○ 交付期間中の計画の管理について</p> <p>交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果を上げるために、まちづくり協議会を今後も継続的に開催し、毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果については、随時市民に情報公開する。</p>	

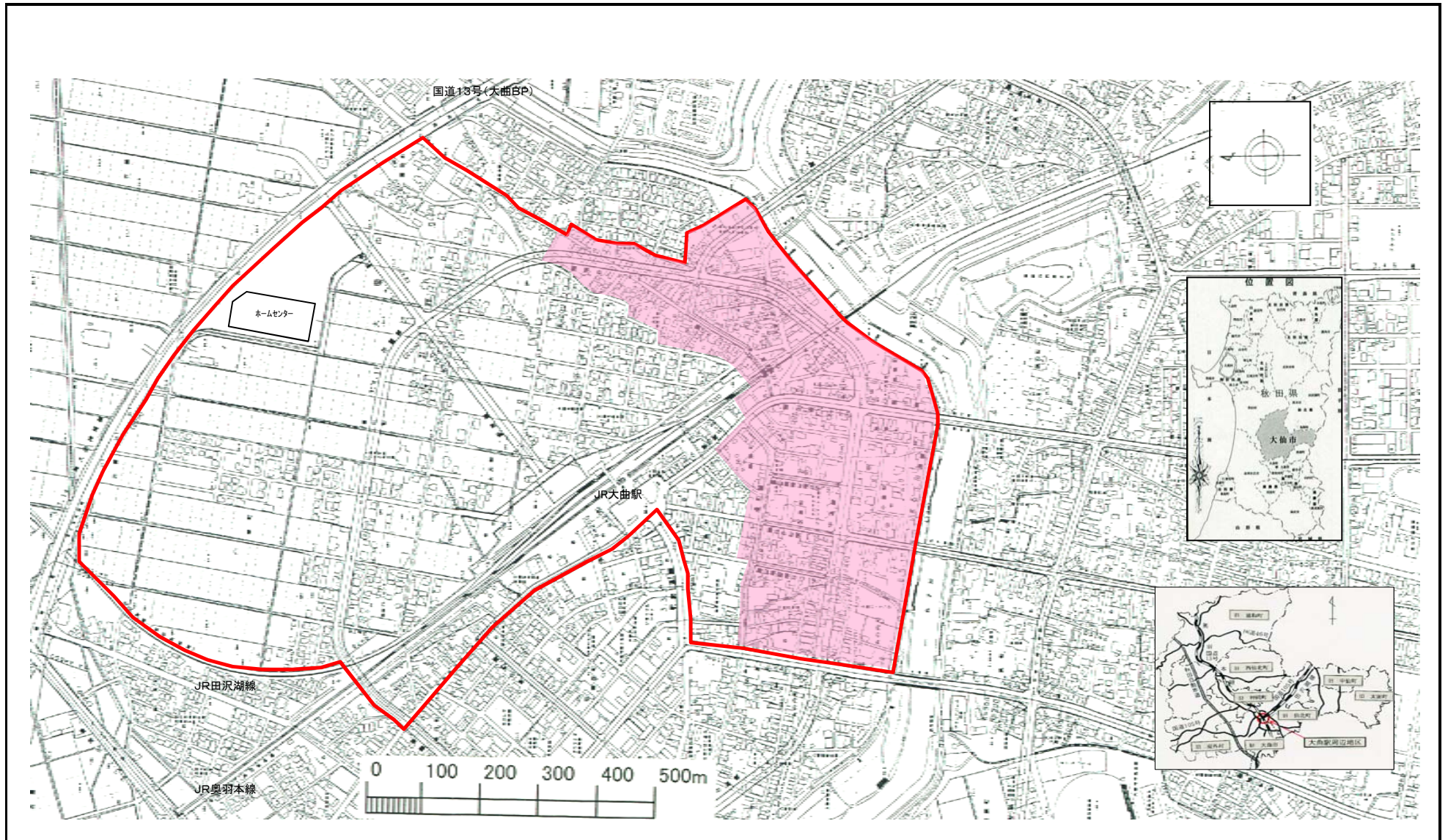
都市再生整備計画の区域

大曲駅周辺地区(秋田県大仙市)

面積 100ha

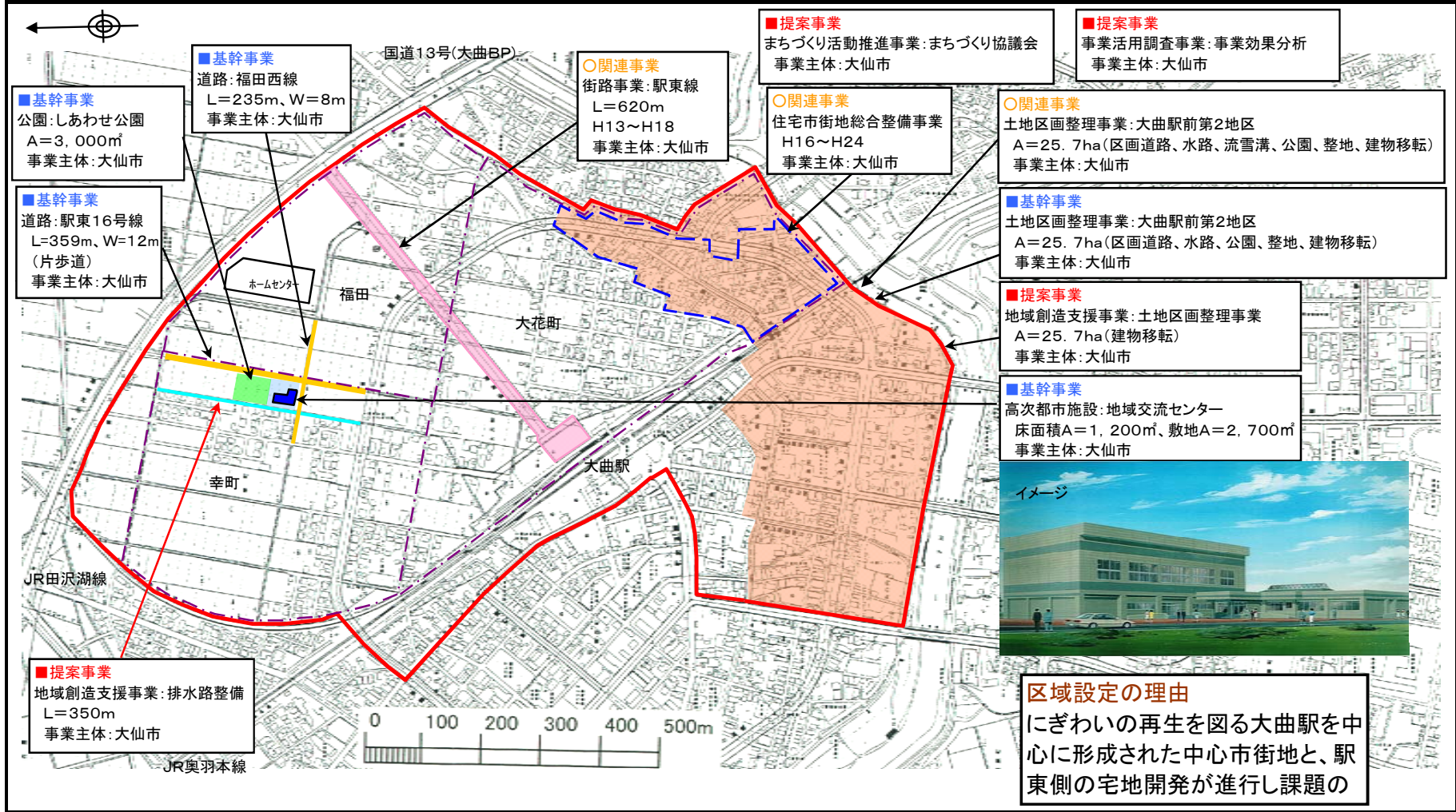
区域

大仙市佐野町の一部、大仙市朝日町の一部、大仙市福住町の一部、大仙市通町の一部、大仙市丸の内町の一部、大仙市幸町の一部、大仙市大花町の一部、大仙市福田町の一部、大仙市中通町の全部と大仙市黒瀬町の全部



おおまがりえきしゅうへんちく (あきたけんだいせんし)
大曲駅周辺地区(秋田県大仙市) 整備方針概要図

目標	駅東西のバランスのとれたまちづくりによる中心市街地のにぎわい再生と魅力の向上	代表的な指標	1. 生活環境の満足度	47% (H17年度) → 56% (H22年度)
			2. 駅東地区における定住人口	2,523人(H17年度) → 2,723人(H22年度)
			3. 駅東西自由通路通行者数	840人(H17年度) → 924人(H22年度)



区域設定の理由
 にぎわいの再生を図る大曲駅を中心
 に形成された中心市街地と、駅
 東側の宅地開発が進行し課題の